

ハイド症候群の病態の検討

この研究計画は京都府立医科大学医学倫理審査委員会の承認を得ており、実施について京都府立医科大学学長の許可を受けています。

1 研究の目的

近年、高齢化に伴い大動脈弁狭窄症症例が増えています。重症大動脈弁狭窄症症例に合併する消化管出血は、ハイド症候群と呼ばれています。ハイド症候群の原因は、大動脈弁が狭くなっており、その狭くなった部分を血液が流れることで、止血作用に必須であるフォンウィルブランド因子高分子多量体が機械的に破壊されることによる出血傾向と解明されました(2012年に New England Journal of Medicine という医学雑誌に報告されました)。わたしたちの施設では、超高齢者の重症大動脈弁狭窄症症例に対して、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を約100例/年程度施行しています。私たちの検討では、TAVI適応患者さんは、貧血を呈することが多かったのですが、原因不明の貧血として診断に苦慮している症例が多くあります。これは、ハイド症候群に関する知見が限られており、また胃カメラ検査や大腸カメラ検査で把握できない小腸病変が多いことが原因と考えています。本研究ではこれらの点に着目し、当院で重症大動脈弁狭窄症症例に対して経カテーテル的大動脈弁置換術を受けられた患者さんの治療前後の、胃カメラ検査、大腸カメラ検査、小腸カプセル内視鏡検査の結果、また血液検査等を後ろ向きに解析し、当院におけるハイド症候群の病態を明らかにすることを目的としました。

2 研究の方法

(1) 対象となる方について

2016年4月から2023年3月の期間に当院にて大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁置換術の治療を受けられた患者さん。

(2) 研究に用いる情報について

病歴、内服薬の種類、血液検査結果、心機能に関する検査・治療結果、内視鏡所見、内視鏡治療所見

3 研究に関する情報公開について

患者さんの検査結果、測定結果、カルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。

この研究の結果は、あなたの氏名などあなたを直ちに特定できる情報を削除して、学会や医学の論文などで発表される予定です。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者(京都府立医科大学 消化器内科学教室 伊藤 義人)の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

研究組織

研究責任者 京都府立医科大学 消化器内科学教室 伊藤 義人

お問い合わせ先 患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

2

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2023年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、研究参加拒否の申し出があった時点で既に研究結果が論文などで公表されていた場合などのように、検査結果を廃棄することができない場合があります。

京都府立医科大学消化器内科

職・氏名 助教・井上 健（いのうえ けん） 電話:075-251-5519 平日 9時—17時